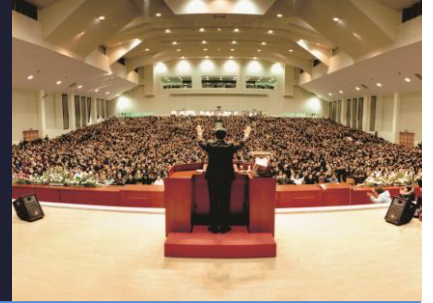


恵みと真理のニュース



2019 年 06 月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

事業の失敗を乗り越えて再起するように助けて下さって、楽しい心で教会を仕えながら奉仕するようにくださる神様の恵みと愛に感謝をささげます。

私は軍隊に行って初めて教会に行って福音を聞きました。しかし、その時は牧師の説教を裏の空で聞きました。日曜日には部隊の外にある教会で外出して聖徒達と共に賛美歌を歌って持て成しをうけるのが好きでした。軍隊を除隊した後は相変わらず以前の姿に戻りました。1979年に結婚して職場に通い二人の息子を産みながら熱心に行きました。

そうするうちに恵と真理教会の区域長の伝道で妻がまずイエス様を救い主で受け入れました。1年後にわたしも妻について教会に行くようになりました。続いて親と兄と兄の妻まで次々教会に通い神様を信じる生活をするようになりました。そうしながら自然に家族で祭祀をしなくて追悼礼拝で変えました。家族達は日々信仰が成長しましたが私はそうではなかったです。妻に連れられて仕方なく教会に行くようになって長い間教会に行っても信仰生活に成長がなかったです。

歳月が経って通っていた職場を辞めて会社の下請け工事を任されて働きました。期待以上で収入が多くてしばらく間、経済的に豊かな生活をしました。すると欲が出来て下請けの仕事を辞めて建設会社を設立しました。しかし、会社が成長するちょうどIMF事態に直面しました。その危機を克服できなくて会社の状況が悪くなりがけで落ちてしまいました。二人の息子は学業を辞めて逃げみちとして軍隊に入隊しました。2002年すべての国民がワールドカップの熱気に包まれている時、私は涙を流しながら日々悲しくて憂鬱な日々を過ごしていました。家の中にある家財に赤札がついていて、競売の日を聞いて債権者達の終わらない借金督促の電話を受けながら“ここが地獄のようだ。”



【信仰コラム】

“わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである...”
(ヨハネによる福音書 14:13, 14)

神様に向いて願って求めることを告げるのがお祈りです。くどくど祈ること、疑いながら求めるお祈り、どん欲で求めるお祈りは禁じられたお祈りです。懇切なお祈り、信仰のお祈り、神様の思いに合うお祈りをすべきです。お祈りする人は神様の時に神様の方法と神様の思い通りに応答されるのが最善の応答だということを確信すべきです。私達がお祈りすると神様がお聞きなさい、適切な措置を行われます。神様が人のお祈りをお聞きなさい適切な措置を行われるという事実が誠に驚くべきで感謝なことです。お祈りに関してたくさんの方の事例と見本が聖書に記録されています。

第一は、アブラハムのお祈りについて調べてみましょう。アブラハムは神様がソドムとゴモラを滅びようと定められたことを知ると、直ちに神様に懇請し始めました。“まことにあなたは正しい者を、悪い者と一緒に滅ぼされるのですか？あの中に正しい者 50 人がいるにも滅ぼされるのですか？”アブラハムは 40 人、30 人、20 人、10 人に数字を減らして続いて懇請しました。しかし、正しい者 10 人がいなくて結局、ソドムとゴモラは滅ぼされました。一方、神様は天使二人をソドムの城にお送りロットと彼の妻、二人の娘の手を握っ

は考えまでしました。

そのように経済的にすべてを失って甲状腺の亢進症、糖尿病、高脂血症など健康まで悪化されました。自らの力では起き上がらない状態になった時にわたしは主を探して神様を仰ぎました。まず、神様の栄光を求める生活をしなかった事を悔い改めました。愛とあわれみ深い神様、全能なる神様に祈ってまた、祈りました。祈りながら生きておられる神様が私と共にいて私を慰めてくださるのを感じました。祈りをしながら神様が私にくださった才能があって技術があるのを悟りました。ハレルヤ！そして、信仰と新しい希望を持って神様に感謝することが出来ました。

聖霊様が感動を与えて下さり、導いてくださって慣れていたアンヤンを離れて周りの知り合いの方々の助けを受けて銀行からお金を借りてスワンに小さいマンションを購入しました。その後、あちこち探して以前の職場を探しました。聖霊様が会社の関係者たちの心を動かしてくださって前にした下請けの工事を再びするようになりました。

以前と違う心の姿勢で働いています。欲を捨て神様の国と神様の義を求める姿勢で礼拝に充実して祈りをして神様の御心を求めて熱心に働きました。すると、神様が助けてくださって摂理して下さり、1年ぶりに大出金を返すことが出来ました。続いて子供たちも結婚して独立しました。一番上の子はイギリスで留学する中で結婚して二人の息子を産んで真実に主を仕えながら生きています。二番目の息子もバジュで職場生活をしながら結婚して娘と息子を産んで楽しい生活をしています。

IMFですべての物を失ったその時から逆境の20年間の歳月、その間、人生の過程の中で私は得たのが多くあります。人の人生で魂の救いを得るほど大きくて重大なことがないのを悟りました。聖徒にはどんな難題と逆境でも結局有益になるのを悟りました。生きておられる神様が共におられ助けてくださらないとできることがないというのを知りました。心を尽くして祈ると神様が時によって助けてくださり、万時が益となるように共に働くということを確実に知りました。この前、水曜日に大事な入札競争で2等で落ちて惜しい心で家に帰って来て伝道した方を導いて水曜礼拝に参席

するため教会に向かいました。そして、教会に入ろうとする時ちょうど会社からかかってきた電話を受けました。落札を受けた会社がどんな理由で工事を放棄して私が工事を引き受けるようになったという連絡でした。神様の恵みによってこのような事を私は何度も経験しました。

去年2015年に妻と私は共に教会で尊い職分を受けました。首区域長である妻は勳士の職分を私は按手執事の職分を受けました。私は過分な職分をくださった。神様の恵みに感謝しながら区域長として区域の聖徒達を仕えています。また、神様が与えてくださったタレントと熱心さでユルジョン聖殿で施設管理分野を担って奉仕しています。あちこちを修理して環境改善をして花飾りをするのがとても楽しくてやりがいになります。神様は金曜礼拝の時、キーター伴奏をしながら賛美する楽しさまで与えてくださいました。

アフリカの中西部に位置した国であるセネガルで工事があって5月の中旬に出張の日程が決まっていた。ところが、5月初旬に作業の途中、膝をケガをして病院に運ばれました。MRIなどの検査の結果、骨が折れて軟骨剥離のため6週の診断を受けた後、手術を受けるようになり現地で連絡して出張を延期するしかなかったです。党会長の牧師が完全な治療と早い回復のため祈ってくださいました。また、教会で様々な機関の会長を始め多くの聖徒達が祈ってくださいました。

手術がよくできて早く回復されました。医師からケガした膝とチャットを交代に見ながら炎症数値が正常に戻ったとしながら驚きました。早期退院をしてリハビリを受け、うれしい気持ちで出張に必要な物品を準備しています。ハレルヤ！

痛かった私の心の傷を癒して下さり、このように体の傷まできれいに治療してくださった神様に感謝と賛美を捧げます。今までの時間を振り返ってみると神様の恵みを受けた子供には万時が益となるように助けてくださるのが神様の御心であり、神様の恵みであることを告白するようになります。主がご覧になるにはいつもまじめで忠誠した働き手であることを願いながら、神様に全て栄光を捧げます。

このようなお祈り（1）

でソドムから引き出すようになさいました。ここで私達はとても重要な教訓を得ることができます。一、アブラハムが神様の公義と慈悲に頼ってお祈りしたことを学ぶべきです。二、アブラハムが神様が御自分の態度と意向を数回も変える程に心を焦がす懇切に訴えたことを学ぶべきです。

第二は、ヤコブのお祈りについて調べてみましょう。怒った兄から離れて逃避の道に上ったヤコブは野原で石をまくらとして寝て、夢から一つの梯が地の上に立って、その頂きは天に達して神様の天使達がそれを上り下りしているのを見ました。起きたヤコブは神様に誓願してお祈りしました。パダンアラムに行ったヤコブが母方の叔父の家で 20 年間住み込みする間に悪賢くていじましい叔父ラバンが重ねて雇用契約を違反したが、ヤコブはお祈りに応答なさる神様の助けを被って食物と着る者に不足がありませんでした。それだけではなく、大金持ちになりました。神様がヤコブが求めたことに溢れる程に応答なさいました。神様の助けを信じて神様に求めるのが信仰の出発であり、核心です。神様が与えてくださる福を受けずには幸福になれなく、神様の助けなしには決して勝利の生活ができないことを知るのが信仰の基本です。神様に福を求めないことは誤った信仰です。イエス様が“わたしの名によって 願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをか

なえてあげよう”と約束なさいました。“何事でも”に含めることができないのはありません。

第三は、モーセのお祈りについて調べてみましょう。神様のお送りを受けたモーセは神様の権能でエジプト王を屈服させてイスラエル子孫をエジプトから導き出しました。エジプトを離れたイスラエル子孫達がシナイ山の下に至って留まる時に、神様がモーセに山の上に呼ばれました。モーセがシナイ山で神様から律法を受けている間に、山下の民達は墮落して金の子牛の偶像を作って崇拜する罪悪を犯しました。神様はこのことをモーセに知らせた後、彼らを尽滅される計画を発表なさいました。これにモーセはイスラエルの民に対する懲罰を免除してくださるよう心を尽くして神様に仲裁のお祈りをしました。神様の品性と神様も名誉、神様の言約を出して訴えました。モーセの懇切なお祈りをお聞きなさい、神様が思いを返らせました。神様が人のお祈りをお聞きなさって御自分の態度と意向を変えられたという事実は私達に深い感動と共に神様に訴えるお祈りができるように胆力を得させます。皆さんは、お祈りの教訓になった要点を心に深く刻んで、これを見習いお祈りすることで多様な応答を体験するように祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

信仰に関連する聖書の用語の中には、多数が通常の事典に記録された単語の概念とは、その真意を正しく理解できない用語です。その中で選ばれという言葉と恵みという言葉があります。この用語は、救われることに関連して使用されます。イエス・キリストを信じて救いを得られるのは、人の功労とは全く関係がないし、完全に神の選ばれるによるのでしょうか。神の選ばれるを受けなくでは、イエス・キリストを信じることができません。神から選ばれた者に聖霊が感動、感化して、イエス・キリストを知るようにし、信仰を与えてくださいます。選ばれという聖書用語は、人間の理解を超えた神秘的な言葉です。したがって、選ばれについて、その原理が論理的に説明されています。これを詳しく見てみましょう。次に、選ばれた者のために、神の保護に関するのと、さらに力を尽くして選ばれを固めることについて見てみましょう。

第一に、人間の理解を超えた神の選ばれるの神秘について見てみましょう。

神様がある人は選択し、ある人は選ばれないのであれば、その選ばれるは、公平なものではなく、不当なことではないかという質問が生じます。その答えは、断固と明白です。「そうではない」です。その答えがローマ人への手紙 9 章にあります。「では、わたしたちはなんと
言おうか、神の側に不正があるのか、断じてそうではない、神はモーセに言われた、「わたしは自分のあわれもうとする者をあわれみ、いつくしもうとする者を、いつくしむ」、ゆえに、それは人間の意志や努力によるのではなく、ただ神のあわれみによるのである」（ローマ人への手紙 9：14～16）しました。哀れみを受ける者を、あわれんで下さるのは、神の絶対主権に属するものです。
「ああ人よ、あなたは、神に言い逆らうとは、いったい、何者なのか、造られたものが造った者に向かって、「なぜ、わたしをこのように造ったのか」と言うことがあるのか、陶器を造る者は、同じ土くれから、一つを尊い器に、他を卑しい器に造りあげる権能がないのであろうか」（ローマ人への手紙 9：20,21）しました。神はすべてのことを自分の意のままにおられます。神は創造主であるからです。しかし、驚くべきことに、神は自分の善良で喜ばれ完全なされた御旨を人々に知らせてくださいました。アダムの犯罪直後からメシアの贖いを通した救いを明らかに啓示しました。その後も預言者たちを通してなん回、なんども言われました。神は罪人を救うために、罪人の罪を贖いなされるために救世主を遣えることを予め知らせました。罪が全くない人でなければ罪人の罪を贖うことができないので、神のひとり子が人の形で世の中に来なければならいでした。このため、神がアブラハムを選ばれました。アブラハムの息子イシュマエルとイサク中で選ばれた者は、イサクです。イサクの息子エサウとヤコブ中でヤコブが選ばれました。

さらに力を尽くして選ばれを固くせよ

これについて記録されるのを「そればかりではなく、ひとりの人、すなわち、わたしたちの父祖イサクによって受胎したリベカの場合も、また同様である。まだ子供らが生れもせず、善も悪もしない先に、神の選びの計画が、わざによらず、召したかたによって行われるために、「兄は弟に仕えるであろう」と、彼女に仰せられたのである。「わたしはヤコブを愛しエサウを憎んだ」と書いてあるとおりである」（ローマ人への手紙 9：10～13）しました。エサウとヤコブが生まれの前にヤコブは選ばれました。その選ばれるは人間の苦労や努力が全く関係がありませんでした。神から選ばれた者が、イエス・キリストを信じて救いを得られるのは、完全に神の恵みに属するのです。

第二に、神から選ばれた者を、神が捨てないことに対して見てみます。

神は選ばれた者を自分の民を捨てないです。使徒パウロは、ローマ人への手紙 11 章 1-5 節で、自分自身を一つの例として提示しました。彼はベニヤミンに属するイスラエルの人としてのキリスト教会を迫害し残骸した者でした。ところが、神の選びを受けて福音を伝える者になりました。パウロは預言者エリヤの質問に、神の言葉に対して言われました。
エリヤの時代にアハブ王と王妃イゼベルがすべての国の全体をバアル神を崇拜で覆わにしました。神の預言者を殺すことまでしました。エリヤは神に訴えるのを、すべての預言者がすべて殺されたが自分だけが生存しているとしました。すると、神はエリヤに言われたのを「また、わたしはイスラエルのうちに七千人を残すであろう、皆バアルにひざをかがめず、それに口づけしない者である」（列王紀上 19:18）しました。パウロはエリヤの時代にバアルにひざまずかなかった七千人に対して言われることによって、今、神は選ばれた民を捨てないことを強調しました。
マタイによる福音書 24 章には、イエスが弟子たちに終末の時代に表われる兆候に対して話した際、神から選ばれた者たちのためどのように配慮なさるのかを言われた内容があります。「その時には、世の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような大きな患難が起るからである。もしその期間が縮められないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選民のためには、その期間が縮められるであろう」（マタイによる福音書 24：21,22）神の審判で、来るの苦難が深刻ですがそんな中でも、神の慈悲が現れています。その患難の期間を縮められてくださるということです。必然的に起こる出来事の中でも、私たちが祈ると、その時と都合を調整してくださる恵み深いメッセージが、このうちにあります。

第三に、選ばれた者たちが、さらに力を尽くして選ばれを固めることについて説明します。

今日の本文には、「だから、愛する兄弟たちよ、堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの勞苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである」（コリント人への第一の手紙 15:58）しました。

敬虔な生活のための努力が止んだら、信仰は低迷に陥るのです。まるでコマを回すようによく回っているときに泡立てが必要です。「もっと力を尽くして、あなたがたの召しと選びを力づけてください」しました。さらに力を尽くすべき目標は、召しと選ばれを固めることです。救いは神の選ばれると召しによるのです。神の救いを受ける者を選択の時になって呼びいただきます。これは、神の主権に属するものであり神秘に属するのゆえ、私たち人間として関与することができず、十分な理解することでもできません。神の選ばれると召しがあっても、神が人間に自由意志を与えてくださったので、神の選ばれた感激した心を持って信じて応する必要があります。そして、さらに力を尽くして選ばれを固く立たなければなりません。
さらに力を尽くして選ばれを堅くするために実践しなければならないものがあります。第一に、さらに力を尽くして礼拝を中心に生活を組合し、調整し、生きてきます。第二に、さらに力を尽くして福音を宣べ伝えなければならないです。福音を広めようとすれば自分の信仰が成長し、成熟されます。福音を宣べ伝えていると、自分が信じている内容が整理されます。そして信仰がさらに強固になります。第三に、神の選ばれるによる福を深く探求しなければならないです。いつも祈って御言葉を深く考え、神との深い交わりを分かち合いながら、神の品性の深く偉大さを日々の詳細を知らなければなりません。召されるの希望、聖徒の中で遺業の栄光の豊か、私たちにくださった能力の多きさについてより深く知ることを努めるべきです。さらに力を尽くして選ばれを固くして得られる結果が二つが記録されました。その一つは、「兄弟たちよ、それだから、ますます勵んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものにしなさい。そうすれば、決してあやまちに陥ることはない」（ペテロの第二の手紙 1:10）しました。多くの人が信仰の道を進む近づい途中でつまずきしてしまいます。これは力を尽くして、さらに選ばれを固くしていない利由です。他の一つは。「こうして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの永遠の国に入る恵みが、あなたがたに豊かに与えられるからである」（ペテロの第二の手紙 1:11）しました。天国はさらに力を尽くして選ばれを固める者が入ります。天国を指して、「イエス・キリストの永遠の国」としました。愛するイエスが統治なされる国で永遠に生きるようになります。
福音を聞いて、イエスを信じる人は、神から選ばれた者です。神は選ばれた者たちが、イエス・キリストの永遠の国に入るように助けてください。神は選ばれた者うんざりして捨てることがありません。しかし、人は神の選ばれるの恵みを退けてしまうことを防ぐことはしません。そのため、私たちは、さらに力を尽くして、神の選ばれるを固く立たなければなりません。

愛する皆さんはさらに力を尽くして、神の選ばれるを固く立つことで、何に会ってもつまずきせず、救い主イエス・キリストの永遠の国に十分に入るようになりますように願います。